クラス	Q303	担当教員	倉掛　崇
テーマ	メディア／文化／社会		
著書・論文 研究課題等	✓ 「メディア受容研究とオーディエンス像の変貌――カルチュラル・スタディズ派によるオーディエンス研究を参照点として」『総合学術研究論集』創刊号、2011 年 ✓ 「〈におい〉感覚を巡るメディア言説の計量分析」『総合学術研究論集』2 号、2012 年 ✓ 「Google Apps の教育活用を推進するビデオコンテンツの開発」『全学教育センター紀要』2 号、2014 年		

ゼ ミ ナ ー ル 概 要

キーワード：メディア、ICT（情報コミュニケーション技術）、言語、コミュニケーション、文化

◆　目的・内容

本演習では、新聞、放送、出版、映画、広告などのマス・メディアはもとより、電話、インターネットなど、メディア・コミュニケーション全般を対象に、それらが社会的・文化的にどのような役割を担い、どう機能し、どんな影響を与えているのかを探究します。これを通して、**＜メディアと社会＞、＜子どもとメディア＞**の関係をより良いものにする／構築するための手がかりを発見できればと思っています。

4 年次の卒業研究にあたっては、大きく 2 つの方向性が考えられます（いずれかを徐々に具体化します）。

第一に、上記のゼミテーマ（枠組み）に関連した具体的な研究テーマを設定し、たとえば、メディアコンテンツ（新聞／雑誌記事、小説、テレビ番組・CM、音楽歌詞など）の内容分析、特定のフィールドを対象とした質問紙調査やインタビュー調査をもとに、データを収集・分析し、**卒業論文**を執筆することです。

第二に、ICT を活用した教材（プリント、動画などメディアは問わない）、授業（研修）デザイン、映像制作などを**卒業制作**として取り組むことです。近年、学校現場へはさまざまな ICT 機器（パソコン、タブレット、スマートフォン、電子黒板、デジタル教科書など）の導入が進んでいます。また、学校以外でも広く、社会人／企業人の学び（研修等を含む）の重要性が謳われています。演習での活動や卒業制作を通して、将来、これらを自身の授業、社会生活等で有効に活用できるようになってほしいと思っています。

◆　方法・授業計画等

前期は、ゼミテーマに関する基本文献の輪読を中心に進め、演習参加者全員の共通理解、知識・スキルを獲得したいと思います。後期には、参加者各自の問題関心・テーマを明確化／深化させるために、発表・報告とディスカッションを繰り返しつつ、今後の研究を具体化するための方法論や ICT 技術に関して、教員から適宜、レクチャする予定です。なお、この演習プログラムは決して、固まった（変更がきかない）ものではありません。一年を通して、ゼミを作っていくためのアイデアや企画提案を歓迎します。

担当教員からのメッセージ

- 大学での学びの集大成としての卒業研究は、就職活動とともに、大学最終学年における活動の「両輪」です。皆さんにとって、来年（3 年次）はその最終準備の年となります。「専門演習Ⅰ」では、（4 年次になって）この両輪が上手く回るように、自身の興味・関心を追求してほしいと思います。
- 演習では、個人での作業（読む／書く）に加えて、グループワークやピアレビュー（聴く／話す）を多く取り入れます。「他の学生がどう考えているかを知る」ことや、「他の学生に自分の考えを論理的に伝える」ことを繰り返すことで、気づきが増え、学びが深まることを期待しています。
- 子達の専門演習ゼミを担当するのは、来年度が 3 年目になります。まだまだ、試行錯誤の時間が多くなることが想像されますが、皆さんと協力して実りのあるゼミを作っていければと願っています。
- **11 月 25 日（金）4 限の 4 年生ゼミ（ゼミ棟 C106）**を開放します。当日は、提出まで 2 か月を切った卒業研究の経過報告を予定しています。現ゼミ生は以下のようなテーマに取り組んでいます。
  ・「NHK バリバラ特集ドラマ『悪夢』で描かれた＜障害者＞の内容分析」
  ・「メディアとしてのスヌーズレンが障害児に及ぼす影響・効果と教育への可能性」